企画広報室

課長　山地　開

当部署は,地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーに向けて,当院で行う医療活動が信頼できるものであるという事を,分かりやすく論理的に伝えるため,下記のツールを駆使し,積極的な情報発信およびスムーズな双方向のコミュニケーションを心掛けている.

1. 依頼講演
2. Web サイト
3. 広報誌
4. イベントへの参画

当部署は1名体制で,多岐にわたる当部署の活動には制限があり,困難であったが,2025年6月に広報委員会を設置し,委員会と協働して業務にあたることにより,少しずつではあるが活動に広がりを見せ始めたと考えている.

1.依頼講演

2025年は,地域の老人会や行政（町役場や消防署）等から医療講演の依頼を26件いただいた.参加者は746名様であった.講師は医師や看護師,コメディカルから事務に至るまで協力を得て,現地に赴いて顔の見える状態で行った.講演後の質問も多岐にわたり,非常にご満足いただいたという声をたくさん頂戴した.また,　許可を得て講演時の様子を写真撮影し,ホームページで公開している.これは病院の活動記録であると同時に,これから依頼をされる方々へどのような演目を希望するかのヒントにしていただくという目的でもある.内容については,健康や病気・感染症に関する演題はもとより,TMAT(特定非営利活動法人)で活躍している看護師に対する依頼も多く,改めてこの地域の災害に対する意識の高さを感じている.これからも講演の依頼が増えるよう広報活動を行っていく所存である.

2.Webサイト

2023年3月の事業承継の際に開設した当サイトについては,タイムリーで正確な情報を迅速に提供することに努めている.広報委員会で毎月,分析データを共有し,閲覧ユーザーやページビュー数が増えるよう視認性を良くし,各診療科の特長を掲載する等のSEO対策を行った.しかし,すべての診療科が治療内容などの情報が掲載されておらず,引き続き各診療科に働きかけを継続していく.

3.広報誌

2025年11月に広報誌『大磯の風』Vol.3を発刊した.広報誌はVol.2まで発刊していたが,先述のように広報委員会を立ち上げたことによって,久しぶりに発刊することができた.まずは定期的に年に2回の発行を目指している.広報委員会では,広報誌の内容について,当院の診療科や当院の取り組みの紹介やターゲットとする層への健康に関する記事を企画し,分担して執筆している.部数は2,000部を発刊しており,病院内の外来や病棟だけでなく,地域のたくさんの方々に手に取ってご覧いただけるように配布していきたい.
なお,Webサイトからの閲覧も可能である.

4.イベントへの参画

2024年より大磯町で開催される大きなイベントに救護班として参画している.2025年8月には『大磯ユニバーサルビーチDay』に救護班として参画した.また同年10月19日には『大磯チャレンジフェスタ』に救護班や健康相談などで参画,同年11月8日には『大磯まつり』に救護班や健康相談,救急車展示,腹腔鏡体験など参加者に大いに楽しんでいただいた.特に『大磯まつり』は

17,000人の参加があったとのことである.参加者とお話をしていると,年々,当院の認知度が高まり,当院に通院されている方が増えていることをスタッフは肌で感じているところである.来年以降も大きなイベントには救護班として,一助を担えればと考えている.

5.その他

2025年は2回,消防本部の方と救急症例検討会を開催した.基本的に年に1回の開催ではあるが,日程の都合で2024年の開催が叶わず,2回の開催となった.
2月10日に行った症例検討会は大磯町,二宮町,平塚市の消防本部,同12月2日はさらに秦野・小田原消防本部も加わり,5つの消防本部の参加となった.いずれも実りのある症例検討会であったが,同時に消防本部の方々から当院に対する要望を直に拝聴する良い機会であり,改善の余地がまだまだあることを実感した.
引き続き,症例検討会を開催していく所存である.